富樫氏の沿革

時代	年号	記事
平安	延喜十五年（九一五）	○藤原利仁　鎮守府将軍次男叙用を加賀土無加之（富樫）郷に遣し、加賀の領主とする。これより富樫氏と称し累世野々市に所縁を発す。
	永延元年（九八七）	○富樫忠頼　加賀国司に任ぜられる。
	正暦四年（九九三）	○富樫忠頼　一条天皇より加賀永住の勅許を賜わる。
	康平六年（一〇六三）	○富樫家国　野々市に館を構えて同族武士団（林氏ら）を形成し、加賀治世上の基礎を固める。邸内に忠頼と三神の神霊を祀る。（住吉宮の祖）
	応徳二年（一〇八五）	○富樫家近（家通）　鳥羽離宮造営に参じ、この時狐の霊異を受ける。
	長治元年（一一〇四）	○富樫家近　野々市に稲荷社廟を創建する。
	寿永二年（一一八三）	○富樫泰家　後白河上皇の内勅を奉じて源義仲に従い平維盛を討つ。この時、源平両軍野々市を通過する。
	文治元年（一一八五）	○富樫泰家　源頼朝より加賀守護職に任ぜられ左衛門尉に叙せられる。その時、今の社地に住吉宮を造営する。
	文治二年（一一八六）	○富樫泰家　源義経の潜行を能美郡安宅に拒んだが勧進帳にこと寄せこれを許す。後、弁慶富樫館を訪問する。通関を許したため守護職を解かれ同時に野々市を去る。
鎌倉	弘長元年（一二六一）	○富樫家尚　野々市に真言密師澄海を招して大乗寺を創建する。

鎌倉	正応二年（一二八九）	○富樫家尚　永平寺より徹通義介を請して大乗寺を禅院に改め、徹通を開祖とする。
南北朝	建武二年（一三三五）	○富樫高家　加賀国守護となる。
	文中元年（一三七二）	○富樫昌家　京師八坂前祇園明禅寺に館し、足利幕家に出入りして諸事に活躍。
町	嘉吉元年（一四四一）	○富樫教家　守護職を剥がされると同時に富樫泰高守護となる。これより泰高と不和になる。
	文安四年（一四四七）	○富樫成春　幕府南加賀を泰高に、北加賀を成春に領することを発する。 ○富樫泰高
	寛正元年（一四六〇）	○富樫成春　本願寺門徒に攻められ野々市を去り山代に走る。
	寛正三年（一四六二）	○富樫政親　加賀国守護となる。
室	文明六年（一四七四）	○富樫政親　越前吉崎御坊を攻める。
	長享二年（一四八八）	○富樫政親　一向一揆のために敗死し、以後、富樫氏守護としての実権を喪う。
	天文四年（一五三五）	○富樫泰高　政親の遺館に入り加賀全土の守護職となる。 ○富樫晴貞　加賀国守護となる。
	元亀元年（一五七〇）	○富樫晴貞　一揆討伐の命を将軍より受け兵を挙げたるも及ばず、伝燈寺において敗死し、富樫氏の終滅となる。

『野々市町小史』より